

かなだ 特報!!

金田町の赤字財政再建に御協力を!

町民の皆さんには5月号の町報で財政状況をお知らせ申し上げましたが、その後新聞紙上等でも既に御承知かと思いますが、本町の財政状況は極度に悪化しております。そこで、昭和55年度の財政状況について、お知らせ申し上げ、再建について御協力をお願いする次第で御座います。

- (1) 昭和55年度の一般会計の状況は次のとおりです。

| | |
|--------|-------------------------|
| 才入決算総額 | 38億73万円に対して |
| 才出決算総額 | 41億2,376万9千円で |
| 差引 | 3億2,303万9千円の赤字決算となりました。 |

- (2) 赤字原因について細かく云えばいろいろとありますが、主として云える事は隣接町との均衡を図りながら、本町の発展のために道路、橋梁、下排水路等の整備、町営住宅、小中学校、各種公共施設等の建設を年次に渡り進め、住民の福祉向上に努めてまいりました。本町は、自主財源が乏しいので、国や県の補助金と借金に依存しなければこれ等の事業の遂行ができず、地域住民の要望に応える事ができなかつたと思ひます。しかし、こうした事業をしたことによって借金が膨張し、財政を圧迫して来たものと云えます。

参考までに金田町の借金は現在どのような状況にあるかと云いますと、昭和55年度末現在(56年5月31日現在)の借金残高は51億4,500万円ありますが、これに対する55年度中の借金の元利返債額は5億1,000万円支払っています。

これを一般のサラリーマンに例えますと、年収400万円の家庭で4.9倍の1,960万円の借金をしており、年間に支払う元利償還額は、189万2千円で年収400万円の47.3%が借金の返債に充てていることとなります。仮に昭和56年度に於いて事業を全くせず、借金もしなかつた場合、昭和59年度を最高に7億1,500万円の元利返債をすることとなります。

こうして借金の返債が今後も年々増加の一途たどるので、一層苦しい赤字財政となります。

金田町の財政規模(一般財源の規模のこと)が小さいため、次の事が云えます。

毎年度決つて入ってくる収入(これを経常一般財源といいます)が55年度では10億4,300万円に対して、毎年度決つて支出しなければならない必要経費(これを経常支出といいます)は、12億4,600万円であり、差引しますと2億300万円収入が不足することとなります。この様に決つて入ってくる金で必要経費をまかなう事が出来ないので今後土木事業とか、労働事業、その他公共施設整備事業等すべての事業を一切しなくても、一般的な日常の業務だけでも赤字が生じる財政内容になっています。この様になったのも前段で申し上げたように、過去から現在にかけて事業をして来た借金の積み重ねによる元利償還金や、扶助費、人件費等の義務的経費また一般的な事務経費及び維持管理費等の増額によってこれ等の必要経費を金田町の町税・地